

地域で掲げられている目標	理念:ICTを活用したみんなを感じられる、ひとにやさしい町づくりの実現 ～あいとびあ狛江～					
チームで掲げる目標	ICT活用についていけない子への支援体制を検討する					
※ICT:Information and Communication Technology(インフォメーション&コミュニケーション テクノロジー)※インフォメーション:事実やデータ、知識など						
地域課題	地域課題の分解	活用する社会資源	どのように活用するか	いつまでに達成するか	こども部会の役割	検討会議・協議会の役割
(ICT機器の操作に苦手さを持ちやすい)障がいのある子どもたちが、ICT機器を操作する機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を子どもたちが自宅以外で使う機会が少なく、また福祉事業所内での使用についてもルールが十分整備されていない。 大人側(学校の教員・放課後等デイサービス事業所職員・保護者等)がICTの活用に慣れていない。 障がいのある子どもたちが放課後等デイサービス内での活動とタブレットの使用が両立できるように、タブレットを使用することができる時間や内容を特定することができてない。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後等デイサービス事業所の支援員 学校の教員 保護者 	狛江市子ども事業所連絡会で、子どもたちがICT機器を使える機会を増やす方を検討し、共通ルールの設定についても話し合う。	令和8年度内	<ul style="list-style-type: none"> 福祉事業所内で、子どもたちがICT機器に触れる機会を増やしていく。 狛江市子ども事業所連絡会として共通のルールなど設定できるかどうかを話し合う。 	
障がいのある子どもたちのなかに、タブレット学習(機器の操作や学習環境)に不慣れな子どもが多い。	<ul style="list-style-type: none"> タブレット操作が苦手な子どもたちへのフォロー体制が不十分である。 質問ができず、授業等の学習全体のペースについて行けないままの子どもたちがいる。 「答えに辿り着くまでの過程」への関わりが希薄になりやすい 学校と家庭学習がシームレスにつながっていることを理解できている家庭はそれほど多くない 紙の方が特性上理解しやすい子もいるが、紙とタブレットの使い分けができる仕組みがない。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人 保護者 学校の教員 職業体験として教えてくれる大学生 学校・事業所と家庭を繋ぐアプリ(google formなど) 保育所等訪問支援事業等の連携の制度 	<ul style="list-style-type: none"> 学校に適切な使用を共に考えるための話合いの場を設けていただく。 障がいのある子どもたちがタブレットやスマートフォンを使用しやすいポイントを収集する。 	令和8年度内	<ul style="list-style-type: none"> 福祉事業所・保護者・学校の周囲の大人が話す機会を作り、障がいのある子どもたちが躓きやすいポイントと対策について情報を共有する。 障がいのある子どもたちが躓きやすいポイントと対策を挙げた資料を作成し、多方面に伝えて行く。 	